

試験研究成果普及情報

部門	内水面	対象	研究
課題名：利根川下流域におけるチャネルキャットフィッシュの生態			
〔要約〕 利根川下流域に生息するチャネルキャットフィッシュは、雌雄とも350mm、4歳から再生産に関与すると推定され、6～7月に支流域で産卵を行っていると考えられた。本種は幅広い食性を示し、植物、魚類、デトライタスを主に摂取していた。			
キーワード ¹⁾ チャネルキャットフィッシュ、産卵、食性、漁獲量、利根川			
実施機関名	主査	水産総合研究センター内水面水産研究所	
	協力機関	独立行政法人水産総合研究センター	
実施期間	2003年度～2006年度		

〔目的及び背景〕

利根川下流域において、近年急増しているチャネルキャットフィッシュは背鰭及び胸鰭にある鋭い棘が漁労作業において支障となっていることや、はえ縄漁においてウナギ等の漁獲を阻害するなど漁業被害が生じている。また、在来生物に与える影響が懸念されていることから、本種の生態を解明するため調査を行った。

〔成果内容〕

- 1 2003年から2006年にかけて利根川本流、支流においてに2,526尾のチャネルキャットフィッシュを採集した。2005年に採集した個体の平均全長は、利根川本流では315mm(95～646mm)、利根川支流では289mm(46～609mm)、平均体重は利根川本流では337g(6～2,460g)、利根川支流では349g(0.6～3,311g)であった。なお、脊椎骨による年齢査定の結果、現在までに採集された個体の中で最も高齢の個体は2004年に採集された13歳の個体であった。
- 2 本種は生殖腺熟度指数(GSI)の推移と年齢査定の結果、雌雄とも全長350mm、年齢4歳から再生産に関与すると推定された。
- 3 本種の産卵期はGSIの推移から6～7月であると推定された。
- 4 利根川支流の長門川で8～9月にかけて産卵後の雌の個体が採集され、また、10月には当歳魚と思われる小型魚が採集されたことから、長門川で産卵を行っていると考えられた。
- 5 胃内容物の調査より、昆虫類、甲殻類、巻貝、魚類、植物、デトライタスなどが出現し、幅広い食性であることが明らかになった。この内、植物、魚類、デトライタスの出現頻度が高かった。また、胃内容物からは多くの底泥も見られ、本種が水底の餌を摂取していると考えられた。
- 6 利根川流域の漁業者を対象としたアンケート調査の結果、2005年度の本種の漁獲量は166千尾と推定された。

〔留意事項〕

〔普及対象地域〕

利根川、江戸川、栗山川流域

〔行政上の措置〕

〔普及状況〕

[成果の概要]

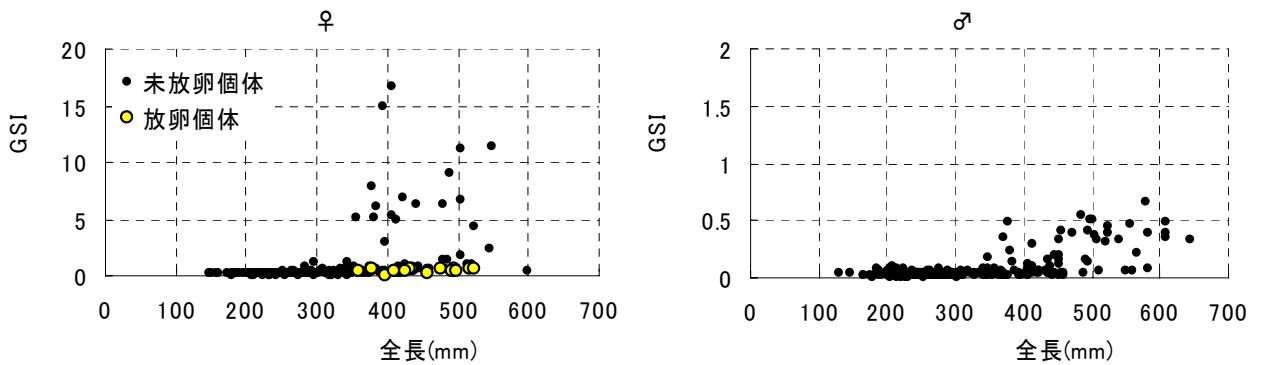


図1 雌雄別の全長と GSI の関係

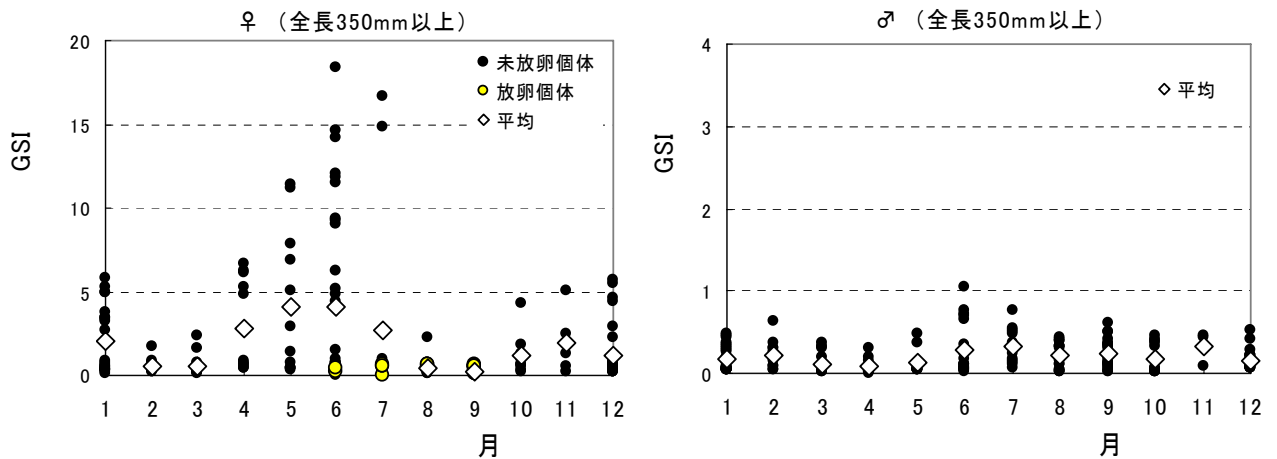


図2 雌雄別、採捕月別の GSI

[発表及び関連文献]

利根川下流域におけるチャンネルキャットフィッシュの漁獲実態, 千葉県水産総合研究センター研究報告, 第2号, 2007年

利根川下流域におけるチャンネルキャットフィッシュの漁獲実態, 2005年度日本水産学会大会講演要旨集, 2005年

利根川下流部におけるチャンネルキャットフィッシュの生活史に関する研究, 平成15年度日本魚類学会年会講演要旨, 2003年

[その他]

移入種管理方策検討事業(水産庁)「課題名: 利根川下流部におけるアメリカナマズの生態と在来魚への影響」

なお、本種は外来生物法において特定外来生物に指定されており、生きたままの移動や飼養等は原則禁止である。